©錦城高校新聞委員会編集室 2020
錦城高校新聞 ２０２０年（令和２年）１１月２６日（木曜日）

# 「さん・くん」を考える 敬称の線引きを取り払って

## 今号から「さん」に統一します

錦城高校新聞では今号から性別に関わらず全ての人への敬称を「さん」に統一する。この号では今まで2年以上行ってきた特集の軌跡や、現在錦城で行われている取り組みを紹介する。

### 「さん」統一までの軌跡

錦城高校新聞では「敬称」「医学部不正入試」「スラックス」「男女別名簿」など様々な「ジェンダー」に関する特集を取り上げ、錦城生の声を共有してきた。（下の記事参照）

### 現在の錦城の取り組み

現在錦城で取り組まれているのが、前生徒会長の橘颯太朗さん（３Ａ）が公約として掲げ、話し合いが進められてきた制服改革。前生徒会本部が実施した全校生徒の投票で、女子用スラックスの導入をはじめとしたシャツや靴下、コートの改善を行うことが可決されている。今後、現生徒会本部ではどのような思いで改革を進めていくのか、生徒会長の中村心咲さん（２Ｆ）に話を聞いた。

中村さんは1年間、橘さんと共に改革に努めてきたことを活かして「今期でも制服改革を引き継ぎ、今までやってきたことが無駄にならないように形にしたいと思っています」と意気込む。現在は業者の方や先生との話し合いを進めているという。中村さんは制服改革の中でも、特にスラックス導入についてジェンダー的な視点から言及し「全校生徒一人ひとりの性別や着たいものに合わせて、自分の過ごしやすいように選択できる仕組みをつくりたいです」と語った。

（編集部共同取材）

過去にジェンダー的な課題に関して特集した錦城高校新聞

### 「さん」に統一

このように、錦城ではマイノリティの生徒に配慮した取り組みが現在進行中だ。また、錦城高校新聞は、これまで男女別名簿やスラックス、錦城高校新聞の敬称について、アンケートを通して錦城生の意識を特集してきた。「錦城高校新聞の敬称を『さん』に統一することについてどう思うか」という内容のアンケートでは、過半数の生徒が錦城高校新聞において「さん」に統一することに賛成。また、敬称の統一は紙面でミスを無くすという点から見ても、セクシャルマイノリティの人への配慮ができるという観点から見てもメリットが大きい。

これらの理由から、今号から敬称を「さん」に統一する運びとなった。錦城高校新聞では今後もジェンダーに関する事柄を取り上げていきたい。

### 統一への歩みを振り返る

こんにちは！錦城高校新聞委員会委員長の山﨑琉花（２Ｇ）です。錦城高校新聞では今まで男女の敬称を「さん」と「くん」で区別していましたが、今号から「さん」で統一することになりました。この錦城高校新聞の動きから、多くの錦城生が身近な問題に対して「それは本当に正しいのか」「何か変えた方が良いのではないか」と考えるきっかけになることを願っています。

今後もジェンダー問題を始めとした話題を積極的に取り上げていくと共に、錦城高校新聞から様々な問題について錦城生みんなに考えてもらえるきっかけを届け、錦城生の声を共有できるような紙面を作成していきたいと思っています。錦城生のみなさん、これからもご協力よろしくお願いします！

**「記事にしてほしい」人や錦城高校新聞への要望、大会報告を募集中です！新校舎7階生徒会室まで！**

### 医学部不正入試　282号(2018年12月)

２８２号では、２０１８年に話題となった順天堂大学医学部不正入試問題について錦城生にアンケートを行った。この問題についての新聞記事を読んでもらい「女子の受験生を不利に扱ったことについて納得できるか」という質問を行った結果「納得できる」が30%、「納得できない」が70%となった。前者からは「事情があるため仕方がない」後者からは「男女差別に感じる」という意見が出された。男女の差別に違和感を持つ錦城生が多いということが分かった。

### 敬称　282号(2018年12月)

２８２号（２０１８年月）では、男女の敬称について錦城生にアンケートを実施。「男女で敬称を区別することを気にしますか」という質問には97%が「気にしない」と回答。一方「敬称を『さん』に統一することに賛成か反対か」という質問には「統一した方が差別はない」という理由から賛成が過半数を占めた。この号では、ほとんどの錦城生が敬称を区別することに違和感はないが、敬称を統一することには過半数が賛成していることが分かった。

## 過去にジェンダー問題について取り上げた紙面を紹介！！

### 男女別名簿　313号(2019年12月)

３１３号では、錦城の男女別名簿について錦城生にアンケートを行った。「男女別の出席番号に違和感はありますか」という質問には、17%が「ある」、83%が「ない」と答えた。また、「出席番号は男女別と混合どちらがいいですか」という質問をすると、65%が「男女別」、35%が「男女混合」と回答。アンケート結果の中には「男女別は差別ではないのか」という意見の一方「名簿のやり方なんてどうでもいい」という意見もあり、様々な意識を持つ錦城生の存在を認識した。

### スラックス　287号(2019年3月)

２８７号では、女子の制服にスラックスを導入することについてアンケートを行った。「スラックスをはいている女子に違和感を覚えますか」という質問には、33%が「覚える」、66%が「覚えない」と答えた。前者の理由として「女子はスカートのイメージ」が挙げられた。また「もしスラックスが導入されたらはきますか」という質問を女子にしたところ、「はく人が少ないため抵抗がある」などの理由で84%が「はかない」と回答。この号では錦城生の中で男女のあり方が無意識に定義されている面が見えた。

# SDGsの情報を幅広く発信する錦城生

## ラジオパーソナリティーを務める

### ラジオを活用して発信

萩原先生と共に入念な打ち合わせを行う（写真は櫻井くん提供）

ＳＤＧｓを啓発する活動を、校長先生の許可のもと積極的に行っている錦城生がいる。櫻井晃太郎さん（２Ｆ）だ。

11月6日（金）に明治大学中野キャンパスにて「Let’s know SDGs!」というＳＤＧｓに関するラジオ番組の収録が行われた。この番組は池袋ＦＭで毎週木曜日の22時から22時30分に放送されており、櫻井さんがパーソナリティーを務めている。今回は、明治大学研究・知財戦略・特任教授、東京工業大学名誉教授の萩原一郎先生をゲストに招き、漏れない紙おむつをはじめとした折り紙工学についての話題が取り上げられていた。

### ＳＤＧｓを広めるために

櫻井さんは中学生の頃にＳＤＧｓに興味を持ち始め、このような活動を行ってきたという（詳しくは３１４号参照）。そして櫻井さんがラジオを始めたのは1年ほど前。「なぜラジオなのかというと、自分がプロデューサーになって自分の番組を作ることができるからです」と櫻井さん。ラジオを通してＳＤＧｓについてみんなに知ってもらい、２０３０年までに達成したいと意気込みを語った。

ラジオの他にも、インスタグラムでの情報発信や、各地でＳＤＧｓに関しての「勉強会」を開催している。現在はコロナ禍のため勉強会はオンラインで、既に2回開かれた。オンライン勉強会について櫻井さんは「普段は勉強会に来ることができない地域の方たちにも参加していただきましたが、直接顔を見ることができないので大変でした」と話す。

櫻井さんは最後に錦城生へ「勉強だけでなく、ＳＤＧｓにも目を向けてほしいです」と語った。（紅）

# 教育実習生の経験から学ぶ進路選択

現在、実際に大学に通っている教育実習生に、高校時代の進路選択や大学生活について取材した。今回話を聞いたのは生物担当の野村和盈先生、政経担当の平方加奈子先生、古典担当の白石古都先生の３人。

野村先生は高校時代、生物が好きだったが専門にしたい分野は見つからず、大学を決める時は学部の中でも選択肢の幅があるところを選んだそうだ。「大学では色々な方向に深く学ぶことができる道があって、その中から自分で選んで突き詰めました」と語る。また、平方先生に高校生のときにやっていて良かったことを聞くと「過去問を解いたことです」と話す。その大学の入試問題との相性が分かったり苦手克服になったりして、自信に繋がるそう。高校と大学の違いについて白石先生は、高校では与えられたものをこなせば良かったが、大学ではやることに上限が決まっていないという点をあげる。「大学に入学したばかりのときは何をすればいいのか悩むかもしれませんが、興味のあることを１つ見つけてそこから突き詰めていくと良いと思います」と語った。

最後に進路選択の分岐点に立っている錦城生に向けて「自分が決めたことに自信をもってポジティブに考えると良いと思います」と平方先生。白石先生は「選ばなかった方は考えず、後悔するぐらいなら今の進路で前を向きましょう」と話す。野村先生は「どちらを選んだとしても自分の姿勢次第で見え方は変わってくるので、選んだ根拠が少しでもあるなら自信をもってください」とメッセージを送った。（卵）

# 小平の展示 「障がい」に幅広い理解を

新コーナー開設のお知らせ！小平市内で開催された展示や行事などを紹介するコーナーです。錦城のある小平市について、より深く知るきっかけになるような記事を発信していきます。記念すべき第１回目は小平中央図書館のこの展示！

### 障がいへの認知深めたい

10月17日（土）から10月29日（木）までの間、小平市立中央図書館にて行われていた発達障がいに関する展示について、10月28日（水）に取材を行った。中央図書館では、平成26年から発達障がいについての本などの資料展示を行っている。この取り組みを図書館と共に主催している小平市役所障がい者支援課の八木雅明さんは「障がいに関して知ってもらうためには、みなさんに自分のこととして捉えてもらうことが重要です。そうでなくても頭の片隅にでも置いておいてくれればと思います」と展示への思いを語った。

お話を聞いた４人

### 企画に込めた思いとは

中央図書館の係員である原恵美子さんは、「例年は4月に設定されている『世界自閉症啓発デー』に時期を合わせて開催されますが、今年は新型コロナウイルスの影響でこの時期に展示することになりました」と話す。図書館では障がい者向けのＬＬブックと呼ばれる本をはじめとする様々なサービスが充実しているそうだ。また、図書館の事務を務める西村明子さんは、一度図書館に足を運んでもらいたいという。「図書館には中高生の抱える様々な悩みに関する本が置いてあります」と西村さんは語った。

今回の取材にはＮＰＯ法人こども未来ラボの担当者特別支援教育士の芋生多恵子さんも同席した。芋生さんは「障がいの有無に関わらず、子供とは1人ではなく皆で育てるものです」と話す。実際に、講演会や親カフェと呼ばれるイベントでは「ペアレント・メンター」と呼ばれる育児経験者がアドバイスをする機会がある。最後に「情報が素早く飛び交う現代社会において、経験者から話を聴くといった少し古臭い手法を残していきたいです」と語った。（卵・桜）

# スポーツの秋 大会で躍進

### 弓道部都４位

大会の結果を振り返る３人

10月25日（日）東京都高等学校弓道大会の男子団体において、弓道部Ａチームは東京都内４位という好成績を収めた。佐藤政仁さん（２Ｃ）は「４位を取ることができて嬉しく思います」と話す。一方で「ベスト3まであと一歩のところだったのでとても悔しいです」と語るのは大田勝己さん（２Ａ）。以前、４位を取った時は喜べたが、今回は悔しいだけが残ったという。長江清太朗さん（２Ｋ）は「３位決定戦は相手が失敗するまで撃ち続けるサドンデス形式で込んだ。敗北を確信した時は悔しかったです」と話す。悔しさを胸に再始動したこれからの弓道部の活躍に期待したい。

### ソフト部ベスト８

「高体連新人大会兼全国選抜大会東京都予選で好成績を残せたことに安心しました」と話すソフトボール部の主将、古閑丸陽子さん（２Ｂ）。印象に残っているシーンについて「３番バッターがあと数センチでホームラン、というとても惜しい打球を打ったことです」と語る。普段は主に外野の練習を重点的に行っていたそうだ。大会前は上手くできなかった守備が、大会ではいいプレーが出来たと笑顔で話す。「冬にどのような練習をするかで強いチームとの差がつけられるので、各自練習を重ねてベスト4に近づいていけるようにしたいです」と意気込んだ。（桜・甘）